

1 偏在する富



2 “危険”なAI



3 子どもとテクノロジー



4 頻発する災害・異常気象



5 戦争と国際秩序



番外編 9・11米同時多発テロから25年

特集

世界の論点 2026-2027

2026年も世界中で多くのことが起こりました。
AIが隆盛を極める今だからこそ、
私たちは自分の頭で現代のさまざまな問題について考える必要があるでしょう。
毎年恒例の本特集では、5つの重要な論点を取り上げます。
自分なりの意見を英語でまとめ、発信するきっかけにしてみてください。

論点1〜5執筆：小田康之（Vital Japan代表、オスペラ株式会社代表取締役）
東京生まれ。米国オハイオ州の高校に留学。上智大学外国語学部イスパニア語学科卒。在学中にマドリード大学に留学。上智大学大学院外国語学研究科にて修士号を取得。三井物産株式会社、アーサー・アンダーセン勤務を経て米国系IT企業のマーケティング部長職を歴任。米国での活動後、帰国し、ダブルクリック株式会社にて経営戦略担当の執行役員などを務める。現在は国内外の企業にアドバイスやコンサルティングを行うオスペラ株式会社代表取締役。



英訳：Dean Robson、井元智香子
編集：EE編集部

写真（論点1）：van Blerk、（論点2）：sopa phetcharat、（論点3）：SynthEx、（論点4）：shankar bhujel、（論点5）：Ibrahim khatib / 全てShutterstock.com
（番外編）：Carol M. Highsmith / Wikimedia Commons

論点 1

偏在する富

Wealth Disparity

billionaire（億万長者）だって想像がつかないのに、2026年、trillionaire（兆万長者）まで誕生した。その一方で、食べるのもままならない人々が世の中には多く存在する。このいびつな世界を変えるすべはあるのか。



富の偏りを是正するため、富裕層への課税を求める声は多い

In June 2026, the listing of the space-development company SpaceX on the stock exchange propelled Elon Musk, its principal shareholder, to a net worth of over US$1 trillion, making him the first trillionaire in history. According to the *World Inequality Report 2026*, released in December 2025 by the Paris-based World Inequality Lab, the world's richest 10 percent own roughly three-fourths of global wealth, in contrast to the mere 2 percent held by the poorest half (roughly 2.8 billion people). Moreover, the richest 0.001 percent—some 56,000 people, no more than would fit in a single soccer stadium—own three times as much wealth as half the world's population, or some 4 billion people, combined.

Why this extreme concentration? As economist Thomas Piketty has shown, the rate of capital return tends to surpass the rate of economic growth. Assets grow faster than wages and also automatically—a process accelerated by the rise of big tech. In fields such as online search and social media, the winner dominates the entire market, and in the semiconductor industry, technological advantages constitute a barrier to entry. In all cases, it takes only a small number of people to generate massive value; while Toyota, with some 390,000 employees, has a market capitalization of roughly ¥4.5 trillion, that of

2026年6月、宇宙開発企業スペースXの上場を機に、その主要な所有者であるイーロン・マスク氏の資産が1兆ドルを突破した。史上初の「兆万長者」の誕生である。2025年12月にパリを拠点とする世界不平等研究所が発表した『世界不平等報告書2026』によれば、世界の資産上位10%の人が全世界の富の約4分の3を所有する一方、下位50%（約28億人）の取り分は、わずか2%にとどまる。さらに、上位0.001%、サッカースタジアム1つに収まる約5万6000人が持つ資産は、人類の半分（約40億人）の合計資産の3倍に達する。

なぜ、これほど偏るのか。経済学者トマ・ピケティが示したように、資本の収益率は経済の成長率を上回りやすい。資産は賃金より速く、しかも自動的に増える。それを加速させたのが巨大テック企業の台頭だ。検索やSNSでは勝った1社が市場を占め、半導体では技術の先行が参入障壁になる。いずれも少ない人数で巨大な価値を生む。トヨタが約39万人を雇って時価総額約45兆円※なのに対し、エヌビディアは約4万人の従業員でその15倍を超える。米国の株価指数S&P500の時

◆各論点の英訳は、自然な英文にするために一部語句が補われているなど、日本語の原文と完全には一致しない部分があります。　※2026年10月末時点

写真：van Blerk / Shutterstock.com